

日本フンボルト協会 2014 年度活動報告および審議報告

理事長 広渡清吾

2014 年 6 月 14 日に開催した年次総会以降の活動報告および審議報告を以下のようにいたします。

1. 2014 年度年次総会

- ・東京ドイツ文化会館で開催し、会員総会出席者は 36 名、理事会提出の 2013 年度活動総括および 2014 年度活動計画・予算案を審議し、決定した。懇親会参加者は企画を共催した DAAD 友の会・日本ケルン会・日本フライブルク会のメンバーおよび留学説明会参加者を含めて合計 156 名の盛況であった。
- ・当日開催した恒例の留学説明会は参加者約 100 名、後日参加者にアンケート調査を行い、その結果も踏まえて常務理事会で次回の説明会のあり方について、とくに参加者と留学経験者である会員の面接交流の密度を高めることを中心に改善を図った。

2. 協会運営のための諸会議について

- ・年次総会に際して常務理事・支部長合同会議および理事会を開催し、会員総会に提出する 2013 年度活動総括および 2014 年度活動計画・予算案を審議し決定した。
- ・常務理事会は年次総会以降、8 月 5 日（京都）、12 月 14 日（東京）および 2015 年 4 月 11 日（名古屋）に開催し、活動の具体化を図った。

3. 支部活動・大学別連絡責任者の設置について

- ・関東甲信越支部、中部支部および関西支部は支部総会など支部での取り組みが行われ予算化している支部運営助成費が活用されている。
- ・中四国支部は 8 月 6 日、ドイツ大使の広島訪問にあわせて本部と DAAD 友の会と共催して「ドイツ大使を囲む会」を開催した（出席者 15 名）。これには予算化されている「学術交流企画助成費」が利用された。同支部は、これをきっかけに支部「会誌」の刊行を計画し、年度末に刊行された。
- ・北海道、東北および九州支部では支部総会開催の準備が進められている。
- ・支部運営助成費の扱いについて、常務理事・支部長合同会議への支部長の参加旅費に充当しうることが常務理事・支部長合同会議で了承された。
- ・支部ごとに大学別連絡責任者を置くことについて、関西支部はほぼ完了した。関東甲信越支部および中部支部は詰めを行っている。その他の支部は、支部総会開催などとあわせて準備中である。リストアップが終わった支部からホームページに掲載することを検討する。

4. ホームページの運営について

- ・ホームページ委員会の委員を 2 名増員し、委員会の仕事の分担を明確化するなど活動の強化を図った。現在の委員会メンバーは次の通りである。

委員長・鏑田武志（関東支部）、委員・居城邦治（北海道支部）、笠井修（関東支部）、小林直人（中四国支部）、高橋義人（関西支部）、高山佳奈子（関西支部）
種村真幸（中部支部）、西原博史（関東支部）

5. ドイツ留学情報検索サイトの運営について

- ・検索サイトへの登録者数は、日本人研究者が 220 名程度、ドイツ人研究者が 310 名程度であり、この 1 年間微増にとどまっている。登録者数を大きく増大させサイトの利用価値を向上させることが課題となっている。
- ・サイト利用者からの質問に対しては担当常務理事を中心に迅速に回答を行う体制が作られており成果をあげている。また、利用者のアドバイスに応じてサイトの仕様を改善する措置も進んでいる。改善措置は経費を要するが、これについては「アルムニ賞賞金」の残額を原資とした「ホームページ管理特別基金」で対応している。

6. 名誉会員制度の運用について

- ・日本フンボルト協会設立来、常務理事会でこの問題を審議してきたが、次の提案を 2015 年度会員総会に行うことを決定した。第 1 に、(旧) 東日本フンボルト協会名誉会員として処遇してきた方々につき日本フンボルト協会名誉会員として推薦することとし内意を確認し会員総会への推薦手続きをとること、第 2 に今後の名誉会員制度の運用につき理事会において「日本フンボルト協会名誉会員制度の運営についての申し合わせ」を行い運営上の明確化を図ることである。

7. 役員改選について

- ・日本フンボルト協会の役員（会則によれば顧問、監事、理事、評議員）の任期は 2 年であり、2015 年度会員総会においてはじめての役員改選を行うこととなった。常務理事会の協議により、手続きとしては常務理事会において役員候補者名簿を作成し、理事会に提案、理事会の決定によって会員総会に提案することとした。候補者名簿の作成については、現役員の方々には役員継続のお願いをすること、辞退者もあることを踏まえ、各支部の強化の観点から役員総数としては増員することを基本とし、新規の候補者の推薦を各支部長に依頼し、また、常務理事会においても人選を協議した。これらの手続きを経て、新役員候補者名簿を常務理事会でとりまとめ、理事会に提案することとした。

8. 東アジアにおける Humboldtianer の交流について

- ・2015 年度年次総会に韓国、中国、台湾の Humboldtianer との交流の機会を設定することを方針として、中国の Humboldtianer と折衝し、招待を目指したが相手方の人選が難航し実現しなかった。継続的な課題として確認している。

9. 協会の会計について

- ・協会の会計については当年度収入の範囲内で当年度支出をまかなうという原則（赤字予算を組まない）で会計運営を進めているが、このためには最低でも半数以上の会員からの会費収入が必要である。会費収入の確保を課題とし、また、賛助会員制度の活用を図ることも検討中である。

以上
(2015 年 5 月 1 日)